

川越貯蓄銀行落成記念絵葉書(左)と新築記念絵葉書(右)
〔齊田美昭氏蔵〕

川越貯蓄銀行の記念絵葉書

川越貯蓄銀行は明治29年（1896）11月、当時の川越町大字川越888番地（現川越市幸町）に設立されました。明治29年9月19日に大蔵大臣へ提出された「株式会社川越貯蓄銀行設立願」によれば、資本金は5万円、設立発起人は山崎豊・綾部峰太郎・山本喜代平・小川五郎右衛門・横田準之助の5名です。その目論見書には、「当銀行ハ明治廿三年法律第七十三号貯蓄銀行条例ニ準拠シ複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ為メニ預金ノ事業ヲ営ミ、其他証券ノ割引、為替事業并ニ貸附等ノ業ヲ経営スルヲ以テ目的トス」とあります。ここにいう明治23年の貯蓄銀行条例とは、一般大衆の比較的少額の預金を吸収することを目的に制定されたもので、埼玉県内では明治28年の本庄・熊谷を初めとして、29年に川越・粕壁（春日部）、30年には秩父・児玉、31年には忍（行田）・所沢・越ヶ谷（越谷）など、各地で貯蓄銀行の設立が進められました。

川越貯蓄銀行の発起人は、明治11年に設立された第八十五国立銀行の役員が名を連ねており、店舗も第八十五国立銀行の一角を使用していました。そのため国立銀行の信用に支えられて、経営も順調だったと考えられます。大正4年（1915）には第八十五銀行（明治31年第八十五国立銀行を改称）の東側に建物を新築して独立し、その後昭和8年（1933）には表通りに面した第八十五銀行北側に店舗を建設しています。

上掲の絵葉書は、大正4年の落成記念と昭和8年の新築記念に発行されたものです。大正4年の建物は当時の営業報告書によると、設計は保岡勝也、^{ひすおかかつを}工事請負者は印藤順造、工事は大正4年3月に起工となり、同年8月頃に竣工したと考えられます。また昭和8年の建物は、設計保岡勝也、工事請負者は木田組木田保造、工事は昭和8年3月起工、同年10月の竣工で、構造は鉄骨鉄筋コンクリート造でした。

設計者の保岡勝也（1877～1942）は銀行建築などを手掛けた建築家ですが、早くから中小規模の住宅設計にも取り組んだため、その先駆的業績が注目される人物のひとりです。川越には、埼玉りそな銀行川越支店（大正7年、旧第八十五銀行本店）、旧山崎家別邸（大正14年）、旧山吉デパート（昭和11年）の保岡勝也設計の建物が現存しており、同人の足跡をたどるには格好の都市といえます。

国指定史跡 河越館跡

～最新の研究成果と史跡整備～

◆河越館跡とは？

現在の川越市上戸に所在する国指定史跡・河越館跡は、平安時代末から南北朝時代にかけて活躍した有力な関東武士・河越氏の居館跡です。河越館跡は、中世武家政権を支えた在地領主の実態を解明する上できわめて重要な遺跡であるため、約48,000㎡の範囲が昭和59年12月6日に国指定史跡となりました。

◆武家の名門・河越氏

桓武平氏の流れを汲む秩父氏を祖とする河越氏は、関東を代表する名門の武士です。永暦元年（1160）、後白河上皇が京都に新日吉社を創建すると、河越氏は土地を寄進して河越荘とし、領主経営を展開しました。この頃、河越氏は「河越」姓を名乗り、現在の川越市上戸に館を構えます。

河越氏は、源氏や北条氏など、その時代の権力者と密接な関係を築き、南北朝時代まで活躍しました。また、平安時代の終わり頃から鎌倉時代中頃まで、河越氏は代々武蔵国の筆頭格である留守所惣検校職を継承しています。

やがて源頼朝と源義経が対立すると、河越重頼らは義経の縁者であることが災いして滅ぼされ、勢力が一時衰えてしまいます。それでも鎌倉時代中頃になると、時の権力者であった執権北条氏との結びつきを強め、かつての勢力を回復し、南北朝時代には、相模守護に任命される程の勢力を誇りました。

しかし、応安元年（1368）、鎌倉府（室町幕府における、関東を管轄する地方政庁）と対立した河越氏は、河越館で挙兵し、同じ平氏の流れを汲む高坂氏らと平一揆（平姓武蔵武士団）の乱を起こします。この反乱は3ヶ月程で鎮圧され、戦いに敗れた河越氏は歴史の表舞台から姿を消してしまいました。

◆河越館跡の立地と環境

河越氏はなぜ上戸に館を構えることになったのでしょうか。その理由を探るには、上戸の歴史と地理的な条件に注目する必要があります。

河越氏が館を構える前の奈良・平安時代、上戸近辺には律令国家の地方統治機関の一つである郡家（郡の役所）が存在したことが、周辺に所在する霞ヶ関遺跡などの発掘調査成果を基に推定されています。当

時の川越周辺は武蔵国入間郡に属していたことから、この役所は入間郡家（古代入間郡の役所）と呼ばれ、入間郡における政治・経済の中心として重要な位置を占めていました。

河越氏が上戸に館を構えた背景として、古代以来、入間郡家が存在する地域の中心であったことや、館の東を入間川、西を古代の官道であった東山道武蔵路（後に鎌倉街道の一部として路線が踏襲される）に挟まれた、水陸交通の要衝であったという立地が重視されたと考えられています。

◆河越館跡の発掘調査

国指定後の河越館跡では、国・県の補助を受け、史跡範囲内の土地公有化が進められてきました。同時に、学識経験者による河越館跡調査指導委員会の指導の下、史跡整備に向けて遺跡の範囲・内容を確認するための発掘調査も進められています。史跡整備に伴う調査は平成7年度から開始され、平成21年現在では第14次の発掘調査が実施されています。これら発掘調査の成果や古文書等の文献資料の研究成果を併せると、河越館跡は河越氏だけでなく、寺域や戦の陣所として繰り返し利用されてきたことがわかりました。河越館跡の移り変わりは、次のように大きく分けてⅠ～Ⅳ期の4時期に分けることができます。

Ⅰ期：「河越氏」の時代（12世紀後半～1368年）

河越氏が館を構えてから平一揆で敗れ、姿を消してしまうまでの時期です。この時期の主な遺構として、「コ」の字型に展開する幅4m・深さ2mほどの堀が確認されています。未調査範囲まで展開するこの堀



発掘調査風景

は、南北75m、東西100m程度の方形状区画になると想定されています。

また、この区画の内側にも遺構の存在が確認されています。区画内で唯一確認された建物は掘立柱建物跡です。史跡外に続く一部が未確認であるため正確な規模は不明ですが、南北3間、屋根を支える柱の間に床を支える東柱を有し、柱穴には柱の沈下を防ぐ根石が入れてありました。

井戸跡は2.5m四方の方形状に掘り窪めた中央に、板で井筒を組み上げ周囲を埋め戻すという工法で造られていました。このような工法の井戸は、当時の武蔵国では類例が少なく珍しかったようです。

堀区画内の北西隅からは、7.6m四方の小区画を造り、多数の石が流れ込んだ溝が確認されています。溝の石は、溝で囲まれた内側に存在した盛土に葺かれたものが流れ込んだようです。蔵骨器と推定される遺物が出土することから、石葺きの盛土と周溝を有する、塚状の遺構と考えられています。遺構の性格は、先祖を祀る霊廟のようなものであったようです。

これらの堀区画及び内部の遺構群は、河越氏が活躍した時代でも後半に属する、屋敷地の一部と考えられます。

出土する遺物は手づくねかわらけ（清浄を重んじる儀式や酒宴で使い捨てにされた素焼きの器）、中国から輸入された青白磁の梅瓶といった武士の生活を偲ばせるものの他に、勇壮な太刀を飾った兜金（柄頭に着ける金具）など、武士が合戦で使用する武器の一部も確認されています。また、火を受けた痕跡の残る軒丸瓦や陶磁器など、平一揆の乱による兵火との関連がうかがえる遺物が出土している点が特色です。

II期：「常楽寺」の時代（14世紀後半～15世紀後半）

現在も史跡内に残る時宗の寺院・常楽寺は、河越氏持仏堂が起源といわれています。平一揆の乱以降の河越館跡では、かつて館のあった範囲にまで常楽寺が寺域を広げ、同寺を中心に繁栄していたと考えられています。

この時代の遺構は、「コ」の字型に廻る河越氏時代の堀区画の西隣に、堀（土堀あるいは板堀か）で囲まれた宗教的な要素が強い区画として確認されています。堀は溝状に掘った基礎（布掘り基礎）として検出され、溝内部の柱跡の観察から、約1.8m間隔で支柱が立てられていたらしいことがわかっています。堀による区画内には墓坑と思われる土坑群と半地下式の建

物群が集中し、そこからは多くの板碑・五輪塔・宝篋印塔、茶道具である茶臼・風炉、仏具である銅製花瓶といった遺物が出土しています。

この堀区画は、河越氏時代の堀区画と並ぶため、I期・河越氏の時代に造られ、河越氏が姿を消した後も存続した墓域と考えられています。

III期：「山内上杉氏」の時代（15世紀末～1505年頃）

15世紀末の関東地方では、扇谷上杉氏と山内上杉氏が対立を深めます。山内上杉氏は古河公方足利氏と手を組み、扇谷上杉氏の本拠地・河越城を攻略するために、河越館跡に陣所（上戸陣）を築きます。

河越館跡では、この陣所に伴う遺構は数多く、敵の侵入を防ぐように折れ曲がった堀が幾重にも巡り、また陣所の機能した短い期間に何度も掘り直しや堀の付け替えが行われた様子が確認されています。また、井戸跡・地下式坑・半地下式の竪穴建物等も多数検出されています。陣所を設置する際には常楽寺の寺域が整理されたらしく、寺域内に建てられていた板碑・五輪塔・宝篋印塔を堀や井戸に投棄した状況が見られます。

なお、史跡西側に現在も残されている土塁は、15世紀半ば以降に造られたことが判明しており、この上戸陣の一部であると考えられます。

出土する遺物は、中国から輸入された青磁・白磁、瀬戸・常滑といった日本国内の窯跡で生産された陶器の他、武士の屋敷で使用される火鉢等の生活用品も出土しています。中でも特徴的な遺物は、山内上杉氏に関わる時期・地域の遺跡で出土する「山内（系）かわらけ」と呼ばれる土器でしょう。

先に述べたように、河越館跡の発掘調査では、上戸陣の時期に属する遺構が非常に多く検出されています。そのため、元々規模が大きい河越氏時代に属する館跡の遺構が、新しい上戸陣の遺構によって壊され、分布や内容が確認しにくい状況になってしまっています。

IV期：「大道寺氏」の時代（16世紀中頃～1590年）

山内上杉氏の上戸陣より後の時期については、遺構・遺物が少なくなってしまう。また、同様に古文書等の文献資料も少なく、当時の河越館跡の姿は明らかにされていません。

一方この頃、扇谷上杉氏の拠点であった河越城は、小田原北条氏のものになっていました。当時、河越城代は小田原北条氏の重臣・大道寺政繁でした。常楽



河越館跡空撮写真(南西から)



河越氏の屋敷を囲った堀



塚状遺構より出土した蔵骨器など



河越館出土の中国産磁器類

寺内の墓地には、この大道寺政繁の墓所（宝篋印塔）が現在も残されています。発掘調査で検出される遺構・遺物や文献資料による裏付けはありませんが、大道寺氏が河越館跡を陣所にするなどの整備を行なった可能性が考えられています。

◆イラストで復元する「河越館」

平成21年現在も、河越館跡の発掘調査は継続中です。これまで実施されてきた発掘調査の積み重ねから、堀や井戸など河越館跡が使用された各時代の遺構が多数確認され、河越館の姿が明らかになってきました。しかしながら、発掘調査で検出される遺構だけでは、建物の上部構造など具体的な姿や、当時の景観まで復元することは非常に困難です。そこで発掘調査成果に当時の絵巻などを参考資料とし、河越氏が活躍した時代でも終わりの頃である、14世紀中頃（I期の後半）の河越館の様子をイメージしてみました。（次頁）

発掘調査では上幅約4m、深さ約2mの堀で囲まれた区画(①)に、掘立柱建物(②)や井戸(③)、石を葺いた霊廟と思われる塚(④)が確認されています。この区画は河越氏の屋敷区画の一部と考えられていま

す。区画は道路(⑤)に囲まれ、南側には出入り口として土橋(⑥)があったと考えられます。

堀区画と道路を挟んで西側に隣接する位置には、土塀あるいは板塀で囲まれた墓域と考えられる区画(⑦)が存在します。また、墓域の北側にも堀が確認されており、こちらにも堀で囲まれた区画(⑧)が存在したようです。

発掘調査された範囲では、残念ながら主屋となる建物は見つかっていませんが、古い時代の遺構・遺物が集中する入間川寄りの場所に主屋が存在したのではないかと想定されています(⑨)。また、館の南には河越氏の持仏堂から発展した常楽寺(⑩)が存在します。河越氏が去り、周辺の区画が無くなり、あるいは姿を変えた後も、常楽寺はこの地に残り続けました。

河越館の周辺に目を向けると、館の東隣には水運で重要な役割を果たしたであろう入間川(⑪)が流れており、西に見える新日吉山王宮(⑫)の近くには鎌倉街道(⑬)が通っていました。この様子からも、河越館が水・陸の交通の流れを押さえた交通の要衝に立地することがわかります。



河越館の俯瞰イラスト

◆明らかになった「河越館」

河越氏がいた頃の武士の館は、堀・土塁で囲まれた空間に主屋が建つような形態ではありませんでした。河越氏の館は、主屋・墓域など、役割の異なる区画が幾つも存在しました。そしてそれぞれの区画は堀や塀に囲まれ、さらに区画の周囲には道路が走っていました。このように、河越氏の館は、役割の異なる区画の集まり全体が「館」として機能していたようです。区画周囲の道路、近在する鎌倉街道、入間川などによって様々な人や物資、情報が集まってくる河越館は、単に有力武士の住まいであるだけでなく、地域の中心となる「都市的な場」として繁栄していたと言えるでしょう。

このように、交通の要となる立地条件に加え、地域の中心として繁栄した歴史的背景があったからこそ、応安元年（1368）に平一揆の乱で敗れ、河越氏が歴史の表舞台から姿を消した後も、河越館の跡地が寺域や戦の陣所として利用され続けたのです。

◆史跡公園オープン！

今でこそ江戸時代に川越城と城下町のあった地域が

川越の中心となっていますが、歴史を遡れば奈良時代から中世まで、入間川左岸の上戸・河越館跡付近が川越を含めた周辺地域の中心でした。「川越」という名称のルーツでもあり、川越の歴史で重要な位置を占める河越館跡は、関東武士の館を想像・体験できる史跡として整備工事が進められています。そして平成21年11月15日（日）より、「国指定史跡河越館跡史跡公園」としてその一部が一般公開されました。

河越館跡は約48,000㎡と広大な面積を持つため、整備に際しては範囲と工期を複数に分け、順次整備・公開する計画になっています。今回公開する第1期整備範囲では、河越氏の活躍した時代の遺構を中心に復元整備し、河越氏や河越館跡周辺の歴史を学ぶことができる歴史学習の場を用意しました。また同時に、芝生広場、休憩用の東屋、トイレといった施設も整え、地域住民の憩いの場として利用できる公園的な空間も提供しています。公開後は様々なイベントの場としても活用し、利用者に親しんでもらえる史跡公園を目指します。

（文化財保護課 平野 寛之）

おはやしづくり

—博物館利用研究委員会の研究から—

川越市立博物館では、学校教育との連携を深め、より積極的な博物館活用が行われるよう研究が進められています。当館ではこの研究機関として「博物館利用研究委員会」が市内小・中学校の先生方で組織されています。特に、昨年度はその研究の一つとして「音楽科」での授業研究会を市内小学校で開催しました。今回は、この授業研究会を紹介します。

音楽科研究部では、小学校第5学年の題材「アジアの音楽に親しもう」を取り上げました。この題材は、我が国や近隣諸国を中心とする諸外国の音楽の曲想や独特の味わいを、鑑賞活動を通して感じ取ったり、表現の活動を通して味わったりすることをねらいとする学習です。その活動の中に「ふし（笛）」と「リズム（太鼓）」を組み合わせ合わせてお囃子をつくる学習活動を位置付けました。児童は、これまでの学習で神田囃子（東京）やねぶた囃子（青森）などの伝統音楽にふれる機会はありませんでしたが、川越の伝統的な音楽は、ほとんどの児童がふれることは少なく、市内各地のお囃子が存在していることもあまり気づいていないようでした。そこで、川越市内にも数多くの伝統的な音楽が存在し、現在も地域の人たちによって大切に引き継がれていることに気づかせるため、博物館資料の活用を考えました。そこで、今回の授業を考えるにあたり、特に次の2点を博物館とのかかわる視点としました。

○学習への動機付け

お囃子の様子を視聴することにより、児童の興味・関心が一層高められる効果が期待できます。そこで、博物館内にある「ビデオコーナー」の映像に着目しました。現在、42の内容が視聴できますが、今回はその中から本時のねらいに沿った8の内容（南田島の足踊り、今福の

祭り囃子、下小坂の獅子舞、福田の獅子舞、上寺山の獅子舞、鴨田の天王様、川越まつり）を選び、学習に必要な部分を編集しデジタル化するとともに、ネット上でも視聴できるようにしました。自分たちの住んでいる地域の伝統芸能にふれることによって、より一層学習意欲が高まると考えました。

○学習シートの活用

学習シートとは、児童の思考の流れやねらいに沿ったものとして、また児童自身の学びで博物館資料の活用が進めることをねらいとして作成するものです。今回の授業では、教科書に記載されているリズムの他に二つのリズム（福田の獅子舞、上寺山の獅子舞）を学習シート

に加えました。これは、二つのお囃子の太鼓に着目すると、「リズム」は共通ですが「速さ」が異なることがわかります。ここから児童は、「速さ」がお囃子をつくる時の重要な要素の一つであることに気づきます。その後、学習シートに提示されたリズムの例から、リズムを組み合わせ合わせてお囃子をつくっていきます。このように、



市内のお囃子と今まで学習してきたお囃子の共通点や相違点を考えることにより、表現したいイメージを豊かにする手だてとなるよう学習シートを作成しました。

今回のお囃子作りの学習で、児童は、自分たちの近隣に残っている伝統的な音楽や芸能の存在を知るとこれらをより身近に感じるようになり、音楽の学習への関心も高まったようでした。新しい学習指導要領では、「伝統や文化に関する教育の充実」が重視されています。このことから、今後一層博物館資料や地域の文化財を活用した学習が各学校で推進されることを期待します。

（教育普及担当 井口 修一）





Information

平成21年度の博物館行事です。(平成22年3月まで)

講座・教室 etc.

●…一般向け事業
○…子ども向け事業

開催日 講座名 内容 申込開始日

1月		<p>16(土)～ 第20回『むかしの勉強・むかしの遊び』展</p> <p>○9(土) 土曜子ども体験 まゆ玉飾りを作ろう 12/3</p> <p>○23(月) 土曜子ども体験 昔の土笛・土鈴作り 1/5</p> <p>●30(土)・31(日) 土器作り講座 1/6</p>
2月		<p>第20回 『むかしの勉強・むかしの遊び』展</p> <p>○13(土) 土曜子ども体験 昔の道具を使ってみよう 当日</p> <p>○27(土) 土曜子ども体験 昔の道具を使ってみよう 当日</p> <p>●7(日)・14(日)・21(日) 博物館歴史講座 『歴史の道を辿る』 2/2</p>
3月		<p>～7(日) 第20回『むかしの勉強・むかしの遊び』展</p> <p>○27(土)～ 第34回企画展『よみがえる河越館跡』</p> <p>○6(土) 子ども博物館教室 『昔の織物に挑戦』 2/4</p> <p>○13(土) 土曜子ども体験 和紙作りに挑戦 3/2</p> <p>○20(土) 土曜子ども体験 茶道体験 3/3</p>

※変更の可能性もあります。申込方法も含め、詳細については「広報川越」またはホームページを御覧下さい。
お問い合わせは博物館まで。
土曜子ども体験は、午前10時～11時30分と午後1時30分～3時30分の時間帯で行います。

ご 紹 介

<博物館受付でお求めいただけます>



第三十一回企画展 大名行列
—描かれた松平大和守家の行列—
A4判 八十八頁 七〇〇円

松平大和守家の行列の様子を描いた絵巻を中心に、使用された道具類や参勤交代の資料を紹介しています。



第三十二回企画展 諸願成就
だるまん大集合
A4判 七十一頁 七〇〇円

喜多院ゆかりの川越だるまをはじめ、全国各地のだるまを紹介しています。



第三十三回企画展 川越城本丸御殿の
杉戸絵と船津蘭山
A4判 八十二頁 八〇〇円

川越城本丸御殿で使用されていた杉戸絵とその作者船津蘭山の作品を紹介しています。

むかしの勉強・むかしの遊び 展

平成22年1月16日(土)～3月7日(日)

夕食の仕度にいそがしい台所では、硬い声のアナウンサーがラジオからニュースを伝えています。ビートルズに夢中のお兄さんは、最近買った部屋の大きなステレオにかじりついてます。妹は雑誌の付録のソノシートで、テレビ漫画の主題歌を聞いています。僕は、テレビのスピーカーにカセットテープレコーダーをくっつけて録音した歌謡曲を覚えるのに必死です。

ラジオ・レコード・録音テープ・カセットテープ、そしてコンパクトディスクへとわたしたちが音を楽しむメディアは変わってきました。それに合わせてプレーヤーもさまざまに形を変え、より小型化され、よい音を手軽に楽しむことができるようになりました。

今回は展示室の一角に「音を楽しむ」機器を集めて、その移り変わりをご覧いただきます。



利用の御案内

◆入館料

区分	博物館	川越市 蔵造り資料館	共通入館(観覧券)		
			●博物館 ●美術館	●博物館 ●蔵造り資料館 ●美術館	●博物館 ●蔵造り資料館 ●美術館 ●まつり会館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	300円	370円	600円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	150円	180円	400円

※()内料金は、団体[20名以上、1名につき]の場合

◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休館日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)

第4金曜日(休日を除く)年末年始(12月28日～1月4日)

館内消毒(6月下旬)特別整理期間(12月下旬)

*開館時間・休館日は、博物館・川越市蔵造り資料館とも原則として同じ

(館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館、蔵造り資料館は1月2日から開館)

交通案内

東武東上線・JR川越線川越駅より
または西武新宿線本川越駅より、
・東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辻バス
下車徒歩8分、または「小江戸名所めぐり」
乗車博物館前バス停下車徒歩0分
・イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物
館・美術館前バス停下車徒歩0分
※御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用く
ださい。



川越城本丸御殿は保存修理のため、平成23年3月(予定)まで休館しています。

平成21年 12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
						5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

平成22年 1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
						6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
						6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※●印は、2館休館(博物館、蔵造り資料館)、●印は、1館休館(博物館)

発行日 平成21年12月10日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1

TEL 049-222-5399 FAX 049-222-5369

Eメール hakuetsukan@city.kawagoe.saitama.jp

ホームページ http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/